

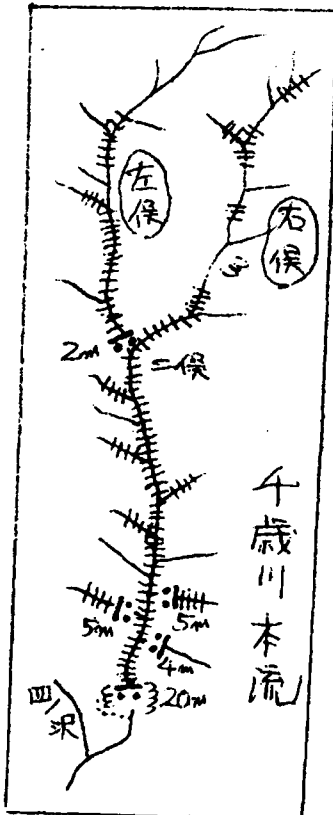
千歳川流域の沢

千歳川は、阿武隈川の上流帯を構成する支流の一つである。源流部は楽翁溪とよばれる景勝地。岩と水と緑の組み合わせ。ハイキングコースがひらかれていたが、今は林道が奥まで入りこんでいる。右岸一帯は、自衛隊布引山演習場となっている。

千歳川本流左俣

1987年8月15日

千歳川流域の支沢の調査を終えて、最後に千歳川本流の遊行に挑む。三ノ沢(仮称)出合から遊行を開始。すぐ20mの滝。右岸を高捲く。ここの高捲きは、この流域の他の支沢の滝の高捲きと違って、比較的容易であった。



滝の上はやはりナメ。本流のナメは他の支沢のナメと違って、さすがに水量が多い。それに下部にはトイ状にえぐれた流れやおう穴もあって変化のある部分もある。

40分程ナメを歩くと二俣。左俣は3mの滝をかけているが、水量が多い。左俣に入る。

左俣に入っても、依然ナメは続く。しかし、沢幅はぐっと狭くなる。やがてブッシュがひどくなる。もう源流である。支沢を右へ右へと進み、カラマツ林が出てきたあたりで、尾根を越えて右俣の下降に移る。

[タイム] 遊行開始(11:55)→二俣(12:40)→遊行終了(13:05)

千歳川本流右俣

1987年8月15日

13:05下降開始。最初は湿地状になったなかを進む。やがて小さな流れが出てきて、ナメとなる。ここから左俣出合まで、ナメが断続しながら支沢を合わせて次第に沢幅が広がり、水量も多くなってゆく。

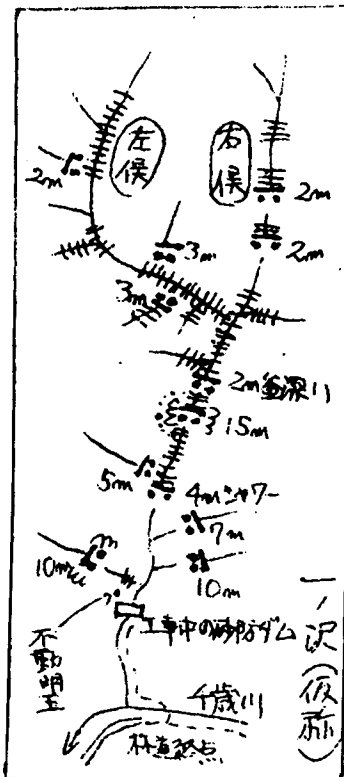
13:40二俣。このあとはナメをどんどん下り、滝は右岸を捲いて下る。14:30下降終了。左岸の踏跡をたどって楽翁溪林道へと出る。 (記・

【タイム】 下降開始(13:05)→二俣(13:40)→下降終了(14:30)→楽翁溪(15:05)

一ノ沢(仮称)左俣

1987年8月15日

楽翁溪林道終点から一ノ沢(仮称)ぞいに砂防工事用の林道がのびている。この林道の終点では現在砂防工事が行われている。工事中の砂防ダムのわきに不動明王を祀る小さな祠がある。ここで合流する支沢には10m程の滝がかかる。右岸を見上げると大きな岩塔。先を期待させる出だしである。5:45遊行開始。



少しの間は平凡な河原が続く。しかし左岸から合流する2本の支沢にはやはり10mクラスの滝がかかっている。やがて4mの滝。この沢で最初の滝である。右岸をシャワーで直登するが、ホールドが少なく、少し緊張した。

つづいてこの沢最大の15m滝。左右とものおっぺりとした岩場がガッチリガードしていて、直登はとても無理。かといって、捲くのも容易でない。右岸に取り付き、樹林帯の中を半ば岩登りのような形で100mほど登り、岩塔の基部をトラバースしてから沢に降りる。どうもここらあたりの岩場は、おっぺりとしてホールドに乏しいようである。

沢に戻るとナメとなり、すぐ小滝が出てくる。この小滝、釜が深く右岸から捲くようにして越す。このあとすぐ二俣となり、左俣に入る。

左俣は、まるで舗装道路を思わすようなナメが続く。そして支沢を分けるごとに水量が少なくな